

## シンポジウム 2 SY2-2

## 東海北陸地方会における高気圧酸素治療の現状と課題：制度改正、安全基準、地域連携の視点から

山田実貴人<sup>1)</sup> 岩瀬塔真<sup>1)</sup> 齋藤史朗<sup>1)</sup> 小林修一<sup>1)</sup>  
 奥寺 敬<sup>1)</sup> 鈴木浩大<sup>2)</sup> 三宅香人<sup>2)</sup> 山田法顕<sup>3)</sup>  
 土井智章<sup>4)</sup> 豊田 泉<sup>5)</sup>

- |    |                 |
|----|-----------------|
| 1) | 中部国際医療センター      |
| 2) | 岐阜大学医学部救急災害医学分野 |
| 3) | 松波総合病院          |
| 4) | 富山大学医学部救急医学講座   |
| 5) | 岐阜県総合医療センター     |

## 【はじめに】

高気圧酸素治療（HBOT）は、急性中毒、虚血性疾患、難治性潰瘍など多岐にわたる疾患に対して有効な治療法である。日本高気圧環境・潜水医学会において、地域医療体制の強化と安全性の向上を目的として、2017年に東海北陸地方会が第6の地方会として承認された。本稿では、地方会の設立背景、活動の変遷、診療報酬制度の改正、安全基準の変更、特殊事案への対応、そして今後の課題について報告する。

## 【地方会設立の背景と活動】

東海北陸地方会は、富山県、石川県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県を中心とする広域医療圏を対象としている。2017年の準備会には29名が参加し、岐阜大学を中心に高気圧酸素治療の伝承と体制整備が進められた。岐阜大学では2006年以降、治療技術の継承が行われており、地域の中核的役割を担っている。2018年に第1回地方会が開催され、「診療報酬改正による変化と安全の維持」をテーマに議論が行われた。この際、「高気圧酸素治療の3R（Right Safety, Right Times, Right Patient）」を提言し、岐阜宣言として地方会の方針に位置づけた。2019年には第2回を施工し、順調な継続を行えたが、2020、21年はコロナにて休会となった。2022年の第3回には技師会長による初主催、コロナ禍対応を行い、2023年の第4回よりハイブリッド開催を行う。ハイブリッドにより全国より参加が可能になる。2024年の第5回には初の北陸開催をすることができた。2025年の第6回も技師会長でハイブリッド開催された。

## 【減圧症対策】

東海北陸地方には第2種高気圧酸素治療装置が存在せず、減圧症発生時には遠距離搬送が必要となる。潜水のみならず、リニア新幹線建設における対応も協議して搬送方法、受入体制、情報共有などが議論された。

2023年9月に高気圧酸素治療の安全基準が改定され、従

来「第2種装置で行わなければならない」とされていた減圧症に対する再圧治療が、「バイタルサインが安定していれば第1種装置でも可能」と緩和された。これにより、地域内での治療実施が現実的となった。

## 【今後の課題と展望】

- ・第2種装置施設との連携強化
- ・専門医の育成と啓蒙活動の推進
- ・県を超えた情報共有体制の整備
- ・ハイブリッド開催による全国的な参加促進
- ・若手医師・技師の参画促進と教育体制の充実

## 【まとめ】

東海北陸地方会は、制度改正、安全基準の変更、地域医療体制の整備を通じて、高気圧酸素治療の普及と安全性向上に貢献してきた。今後は、装置整備、専門人材の育成、広域連携を通じて、より持続可能な治療体制の構築が求められる。地方会の活動は、地域医療の質向上と災害・特殊事案への対応力強化において、重要な役割を果たしている。

## 【おわりに】

第60回日本高気圧潜水医学会 学術総会が2026年6月5、6日に岐阜で開催され、第7回東海北陸地方会も併設される。テーマは「The right safety, the right time, the right patient」と東海北陸地方会の初心を伝達している。東海北陸地方会に協力いただいている会員の皆様の日ごろの研鑽と安全な活動によるものと感謝申し上げます。